

学 会 記 事

2025年度第1回理事会議事録

日時：2025年9月6日（土）14:00-15:30

【WEB会議形式】

出席役員：出席理事42名、出席監事2名

- ・会長1名：山路 敦
 - ・副会長2名：杉田律子・星 博幸
 - ・常務理事1名：亀高正男
 - ・副常務理事1名：内野隆之
 - ・執行理事13名：岩井雅夫・保坂（内尾）優子・尾上哲治・加藤猛士・小宮 剛・坂口有人・辻森 樹・細矢卓志・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
 - ・理事24名：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・岡田 誠・笠間友博・加藤潔・香取拓馬・川村紀子・桑野太輔・小松原純子・斎藤 真・佐々木和彦・澤 燐道・沢田 輝・下岡和也・高野 修・田村嘉之・中澤 努・西 弘嗣・野田 篤・広瀬 哲・松田博貴・道林克禎・矢島道子・山本啓司
 - ・監事2名：岩部良子・山本正司、事務局1名：澤木寿子
- 欠席役員：理事（8名）：大坪 誠・金丸龍夫・神谷奈々・清川昌一・沢田 健・菅沼悠介・高嶋礼詩・和田穰隆
- ・開催にあたり、今年度理事会議長として野田理事、副議長として田村理事が選出された。
 - ・書記は広瀬理事、桑野理事が指名された。
 - ・議長により理事会の成立要件の確認がなされた。本日の出席者が42名、成立要件は理事総数50名の過半数26名以上であることから、本理事会は成立することが確認された。議決は出席者の過半数22名以上である。
 - ・開催に先立って山路会長からより、理事に対して参集への謝辞と活発な議論をお願いしたい旨挨拶があった。

報告事項

1. 執行理事会報告（亀高常務理事）

2024年度第12回～2025年度第2回執行理事会議事録をもとに報告、審議された事項の概要が説明された。

- ・中学・高等学校理科教科書に関する説明および意見交換は、熊本大会3日目午後に説明会が開催されるので可能な限り出席をお願いしたい。
- ・IUGSジオヘリテージ事業公募について大学等へ働きかけを行う。
- ・ヒマラヤ野外実習プロジェクトより学会推薦の希望があり、緊急連絡体制や安全対策等について学会から問い合わせを行った。なおその後、推薦希望は取り下げられた。
- ・増刷予定のフィールドノートは1000円以内で販売できるよう価格を再検討している。
- ・地質学雑誌「報告」カテゴリーの廃止について検討している。「報告」は議論が含まれないと規定されているが実際には議論が含まれている事例が多い。ノートとの差別化も問題。現行の編集規則もわかりにくいため将来的に修正していく方向。

・学会員の休会制度の新設について議論を始めている。育休などに伴う学会活動休止にともない会費支払いを休止できるようにすること等が目的。総務委員会で原案をつくりダイバーシティ委員会等で議論の予定。

2. 総務委員会（加藤猛士理事）

- ・会員動態：2025年8月末時点の会員動態と、前回（4月）理事会以降の逝去会員6名の報告があり（植村 武名誉会員、古沢 仁会員、井上 茂会員、有川隆一会員、大橋俊夫会員、後藤博弥会員）、黙祷を捧げた。学生パックなど、会員数増加を目的に行ってい各種対策の効果については現在分析中。
- ・その他：Teamsを利用したオンラインストレージ環境の利用開始に関して報告があった。各委員会、部会にはすでに報告済みだが、業務効率化のために活発な利用をお願いしたい。

3. 広報委員会（坂口理事・内尾理事）

熊本大会概要、表彰、各種行事、ハイライト講演、市民講演会「熊本から始める最新恐竜学」、地質情報展「くまもとー火の国、水の国！大地のふしげー」、第22回日本地質学会ジュニアセッション、学生のための地質系業界説明会等に関して、文部科学省記者会、熊本県政記者クラブへ投げ込み（プレスリリース）を行った。これらは関係各所への周知とともに地域のメディア等でとりあげられ、広く周知される見込み。

4. 行事委員会（山口理事：高島理事の代理）

・2025熊本大会：

→講演申込519件（口頭243、ポスター276、※ジュニアセッション27件を含む）を採択した（山形大会は総計520件なのでほぼ同数）。事前参加登録者数約680名（山形大会657名より微増）。懇親会申込187名（うち学生52名）。

→巡査は9コース中8コースが催行予定。また、8月熊本県内の記録的豪雨の影響により、巡査ルートに一部変更が生じている。変更のあるコースについては、案内者から参加者予定者に向けて随時連絡を行った。案内書原稿は9コース中8コースが受理済み。

→学生優秀発表賞エントリー143件。審査員について、事務局より審査有資格者に再度依頼した。35名より可能との返答があった。審査員の配置に偏りがあり、口頭発表の地球史、岩石鉱物、九州の火山テクトニクス、沈み込み帶付加体などについてさらなる協力をお願いしたい。

・2026金沢大会：会期2026年9月13日（日）～15日（火）、会場：金沢大学。地質情報展、市民講演会を福井市内で開催する。学術大会と開催地が異なることについて質問があり、地質情報展は、なるべくこれまで実施したことのない地域で開催したいという産総研の方針があること、広報・普及の相乗効果を考慮して、市民講演会も情報展と同地域で開催する旨回答があった。

・2027つくば大会：会期2027年9月5日（日）～7日（火）、会場：つくば国際会議場。会場選定の経緯について質問があり、警備等の関係により筑波大学が会場として急に使えない可能性があること、大学までの交通の便がよくないこと、国際会議場は機材等を別途準備する必要がないことなどを考慮して決定した旨回答があった。

・熊本大会LOC松田博貴委員長より挨拶。来週開催に向けて最終準備を行っている。豪雨による巡査コース変更が起きているが代替コースを設定し、無事開催できる予定である。かなりの暑さが予想されるので、十分な対策を各自お願いしたい。

5. 地質学雑誌編集委員会（小宮理事）

2025年投稿数33件（昨年比で微減）。2024年66件、2023年は57件であり、さらなる投稿をお願いしたい。年会各セッション世話人に、セッションの中から投稿を依頼する講演の推薦をお願いしているが、まだ十分に浸透していない。各賞受賞者による論文投稿も依頼しているが、なかなか投稿に繋がらない。これらについて関係者には声かけをお願いしたい。

6. Island Arc編集委員会（辻森理事：亀高理事が代読）

32編が公表済みで、昨年よりハイペースである。ただし小規模雑誌では引用数の伸び悩みによりIFが激減する恐れがあるため、さらなる論文投稿、掲載論文の積極的な引用をお願いしたい。IFは2024年度は1.3、過去5年間で1.4、サイトスコアは2024年度は2.4。

7. 地学教育委員会（岩井理事）

熊本大会Jセッションは13校27件を予定。PDFによる事前審査を開始しており、理事に対して審査協力が呼び掛けられた。

8. 地質技術者教育委員会（加藤猛士理事）

・熊本大会地質系業界説明会：対面企画に40団体が出席予定。今年は対面企画のみ実施する。学生が参加しやすいように午前中からの開催とした。学生の事前予約15名（9月6日現在）。学生の進路選択に寄与できることを期待している。関係者は引き続き周囲の学生への声掛けをお願いしたい。

・地球・資源分野JABEE委員会による第2回情報交換会：11月27日（木）開催予定。JABEE認定プログラムを取得していない機関にも周知し、認定申請に向けた支援も行う。交通費等を措置することで参加促進をすすめている。また、人材動向調査を関係学会に対して実施中（締切は9月26日）。

9. ジオパーク支援委員会（天野理事）

「大地と人のものがたり」が6月10日に発行された。初版2500部、好評発売中。販売動向を見ながら増刷も検討している。会員向け特別販売キャンペーン（7月10日～8月25日）を実施した。申込数17件。Youtube「本チャン

「ネル」に担当者が出演し宣伝をおこなった。閲覧数630回（9月6日現在）。文系分野への宣伝効果が期待される。

10. 若手活動運営委員会（桑野理事）

- ・学生・若手の交流会：熊本大会会期前日9月13日（土）に、多目的交流施設で学生・若手の交流会を実施予定。自己紹介やフリートーク等を予定し、参加しやすいよう途中参加・退出も可能。
- ・若手巡査：10月18日（土）に長瀬・皆野地域でバスによる日帰り巡査を予定。講師は、早稲田大学永治方敬准教授、田口知樹准教授。35歳以下の学生および若手研究者を対象。学生参加費の半額を学会補助とする。
- ・地質系オンライン交流会：12月開催予定。学生や若手研究者が業界若手職員との交流を図る場として、座談会や懇親会などを企画している。引き続きご協力をお願いしたい。

11. その他（岩井理事）

地震火山地質こどもサマースクールを8月に御嶽山（長野県）で開催した。詳しい報告は次回理事会で行う。来年度は気仙沼、その次は金沢で地震に関係した企画を検討中。2028年度以降の候補地は未定なので関係者にはご協力をお願いしたい。

審議事項

1. 選挙管理委員会の設置について（亀高常務理事）

2026年度代議員および理事選挙・監事選挙の選挙管理委員会として、執行理事会よりメンバー5名の推薦があり、承認された（委員長：白井正明、委員：荒井健一、牛丸健太郎、栗原敏之、郡山鈴夏）。選挙概要やスケジュール等を確認し、前回同様、基本的にはWEB投票を行うが郵送投票も可能。郵送希望者は事務局へ要連絡。現代議員には引き続き立候補を期待するが、周囲への周知が呼びかけられた。またあわせて会長、副会長候補者の意向調査も行う。前回は投票率が低かった。今回はぜひ周知徹底し、投票率を高めたい。

2. 2026金沢大会巡査コース案（山口理事）

8コース（ポスト巡査5件、プレ巡査3件）を予定。うち2件は能登半島地震関係である。巡査コース案について、賛成多数で承認された。

3. 「地質系若者のためのキャリアビジョン誌」の活用拡大策（案）（坂口理事）

2024年版は地質系企業131社を掲載し、2500冊を48大学に配布した。掲載社数は年々増加しており、企業ニーズが高まっている。また大学でのキャリア教育への貢献など本誌には幅広い波及効果が期待される。今後学部全体や高校生・保護者など配布先拡大を図るために、掲載料の値上げと一定数（50部）以上の配布についての有料化（1冊あたり100円）が提案された。賛成多数で承認された。

監事コメント

（山本監事）今年は選挙が予定されている。選挙システムがやや複雑であるが、前回よりも高い投票率となるよう留意し、選挙を進めていただきたい。

（岩部監事）今年は選挙の年であり、より多くの立候補をお願いしたい。投票率増加にむけて広報等もしっかりとお願いしたい。キャリアビジョン誌は、地質系学生が進路を前向きに考える際に大変役に立つ。地質系の教育の先に専門職があることを知ってもらえるよう、大学だけでなく高校生も含め配布を行うことが重要である。今後も積極的に配布拡大を検討してほしい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長および出席監事、理事は次に記名・捺印する。

2025年10月16日

一般社団法人日本地質学会

理事：議長 野田 篤

理事：副議長 田村嘉之

代表理事：会長 山路 敦

理事：副会長 杉田律子

理事：副会長 星 博幸

監事：山本正司

監事：岩部良子

理事：出席理事名（省略）

2025年度第3回執行理事会議事録

日程：2025年9月6日（土）10:00-12:00

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高 正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾（保坂）優子、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

欠席：大坪 誠、高嶋礼詩

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事00名の出席

*前回25-02議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項（理事会報告の確認）

1. 全体の報告

・山田科学振興財團2025年度研究援助選考結果について、地質学会から1名の会員を推薦したが、不採択となった。

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・発注者・若手技術者が知っておきたい『地質調査実施要領』解説講習会（主催：経済調査会、11/12大阪、11/18東京開催予定）に対する後援依頼があり、承諾した。

・観察会：宅地開発で隠れた衣笠断層帯を歩く（主催：三浦半島活断層調査会、12/6開催予定）に対する後援依頼があり、承諾した。

・深田地質研究所より役員変更の連絡があった。（新理事長：松田博貴氏）

・共催、協賛、後援等の定義について、2020年12月理事会で定めた分類を踏まえて再確認し、それらの違いを外部にも分かるようHP等で公開する予定。

<会員>

1. 今月の入会者：正会員3名（一般1、学生2）
正会員一般：石橋真那美

正会員学生（2年パック（1名）、3年パック（1名）：加藤三咲、金丸花凜

2. 今月の退会者：なし

3. 今月の逝去者：なし

4. 2025年8月末会員数

賛助：40、名誉：33、ジュニア会員：7、正会員：3141〔一般1974、シニア886、学生会員281〕 合計 3221（昨年比-4）

5. 前回（4/19）理事会以降の逝去者氏名（6名）

名誉会員（1）植村 武（逝去日：2025年5月14日）

正会員シニア（5）古沢 仁（逝去日：2023年9月2日）、井上 茂（逝去日：2024年8月7日）、有川隆一（逝去日：2025年4月14日）、大橋俊夫（逝去日：2025年4月26日）、後藤博弥（逝去日：2025年5月15日）

<会計>

特になし

<その他>

・休会制度の新設について（→審議事項へ）

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口・内尾）

・ホームページリニューアル進捗状況：遅れているが、今年度内の完成に向け作業を急いでいる。

・熊本大会プレスリリースを行う

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2025熊本大会：

→講演申込519件（口頭243、ポスター276、※ジュニアセッション27件を含む）（昨年の山形大会は520）、懇親会申込187（うち学生52）。

→学生優秀発表賞のエントリーは143件。現状、審査員数が2名以下の発表も幾つかあるので、積極的な審査委員登録をお願いしたい。

→巡査は9コース中8コースが催行予定（巡査案内書も8コースが受理済み）。8月に熊本県内で発生した豪雨により、巡査ルートに一部変更が生じ、当該コースの参加者予定者にはその旨を案内者から連絡済。また、すべての参加予定者に、安全のしおりを事前に送付した。

・2026金沢大会：会期は2026年9月13日（日）～15日（火）、会場：金沢大学、地質情報展及び市民講演会は、未実施地域で開催し